

ずいそう

かぶとむしはいつか落ちてくる

寛 明



お江戸から 370 km, 名古屋から 40 km。濃尾平野の西北に位置する西美濃大垣に赴任し、4 年が経った。付近は中山道、北国街道、伊勢路、美濃路などが交差する交通の要衝。忙中閑あり、四季に花をたずねながら、折々感じたことなど認めてみた。

■□□春は片栗^{*1}（かたくり）の紅紫

春は 4 月、可憐なかたくりの花が咲く。ここは近江と美濃の境、伊吹山のふもと。満開の桜、その喧騒にかくれ、少しうつむき加減の紅紫のかたくりの花が、春風に揺れていた。登山口からゆっくり登って、琵琶湖竹生島を望む、素晴らしい眺めの高原、三合目。山頂付近に広がるお花畑。随所に様々な高山植物を見ることができ、織田信長の薬草園もあったらしいなどと聞くと、「この山のどこに、かたくりの咲くところがあるのだろうか」と伊吹山を眺めるようになった。

8~9 年もかかって地上に現れ、春 1 週間ほど咲く。家の庭に咲かせようと掘り返す御仁や踏み荒らす不心得者が絶えず、この地では地元の限られた人々だけ、いつしか知る人ぞ知る世界になったようだ。時には、少し肩の力を抜いて忘れずに追い続けること。開高健という小説家に「思いや夢、今できないことはカブトムシだ。そのカブトムシに糸をつけ飛ばせておけ。そのうちくたびれ、落ちてくる」というような言葉がある。3 回目の春、目の前にかたくりの群落があった。見事なカブトムシが、落ちた瞬間だった。

□■□夏は百日紅^{*2}（さるすべり）の白

全国にある赤坂、赤い坂は、何らか鉄に関連した地名ではないか、と思っている。中山道の宿場だった大垣の赤坂も、北の石灰山から赤鉄鉱が取れる。そうすると近くにたたら（製鉄）の跡や鍛冶のお宮さんがあっても不思議ではない。赤坂の西隣には美濃国の国府跡、その国府跡の南に美濃一宮。地元で南宮さんと呼ばれ、古来崇敬が篤かった大社、背後の山にはたたら跡もあるようだ。今も製鉄をはじめ鋳物、鍛冶、鋳山など

全国の金物（金属）を扱う人々の信仰を集めている。

神の鋼で機械を造る、そのものずばりの名前の会社に勤めている関係で毎年正月お参りする。奉納された斧、鎌、鋳石、各企業の額を見るにつけ、「鍛えること、ものづくりの心を忘れるな」、そんな先人の戒めが聞こえてくるようだ。

三代家光が再建したという国重文の社殿の後ろに何本かのさるすべりがある。鮮やかな朱塗りのお宮を見た後に、白のコントラスト。咲き始めの真っ白な百合とともに、夏のカメラ持参の楽しみになっている。

□□■秋は曼珠沙華^{*3}（まんじゅしゃげ）の赤

400 年ほど前の初秋に世間を騒がす天下分け目の戦いがあった。15 万もの人々が激突、川は流れる血で黒くなったと伝えられ、黒血川という地名も残る。今、丘陵は長年の風雪ですっかり濯がれ、のどかな里山風景になった。

三成の本陣、笹尾山から眺める。寝返りで形勢一変とはいえ、どうして負けたのか。出身地に近く土地勘のある庭同然の決戦地、高みを占めた陣取り、西の佐和山と東の大垣に堅固な城があり、挟み撃ちの理想的な構え。現場の指揮官に信頼される実戦派、百戦錬磨のトップとの、現場感覚の「厚い、紙一重」の差だったのだろうか。毎年、少し色づき始めた稲穂の波に、まんじゅしゃげの赤い帯が美しい。

□□□冬は寒牡丹^{*4}（かんぼたん）の深紅

その昔、用心深い家康は、中山道沿いに将軍専用の休泊所として、大手門、本丸などを持つ小さなお城、「お茶屋敷」をつくった。赤坂には信長の作った岐阜城の御殿を移築した、現存唯一の遺構が残っている。時は明治、旧家の資産となった。現在丹精込めた牡丹園として開放されている。

明治以前は松竹梅に添えた新春の生け花として盛んに栽培されていた寒牡丹が、11 月から冬にかけて咲く。近年品種改良によって薄紅、黒などの色もあるようだが、ここでは深紅、赤、白を見ることができる。春の絢爛豪華、百花の王にふさわしい牡丹も良い。しかし、寒さに耐え、健気に凛と咲く深紅の寒牡丹は一層素晴らしく、こうありたいものと、本当に元気付けられる。

カメラを担いでの散歩、山登り、ゴルフ、旅行、鑑賞、いずれでも結構。カブトムシを飛ばせておいて、自分にあったやり方で、場面を変える。健康に良いことはもちろん、カブトムシを早くくたびれさせる効用もある。四季折々の自然環境と人の営みが上手に共存し、この楽しみが続くことを願う、今日この頃である。

- *1 ゆり科カタクリ属。日本各地の山中にはえる多年草。高さ 15 cm 位。葉の表面に紫色の斑紋。花は春、径 4~5 cm、花の内面に濃紫 W 字の紋。鱗茎から良質なでん粉。花言葉は初恋、寂しさに耐える、嫉妬、情熱。
- *2 中国南部原産。庭木としても栽植、落葉高木。高さ 3~7 m、幹は滑らか、花は春から初夏に次々に開く。和名猿滑りは木肌がつるつるし、サルも滑り落ちる意。漢名百日紅は花が百日にわたることから。花言葉は雄弁・愛敬。
- *3 本州、四国、九州、および中国に分布。堤防、墓地、路傍に多くはえる多年草。高さ 30~50 cm。花は秋、有毒植物。和名は（秋の）彼岸花。別名は赤花を表す梵語で曼珠沙華。花言葉は悲しい思い出・情熱・独立・再会・あきらめ。
- *4 中国原産、古い時代に日本へ渡来。觀賞用、落葉低木。高さ 50~180 cm。花は晩春、花径 20 cm 位。1929 年まで中国の国花（現在梅）。花言葉は富貴・恥じらい・高貴・壮麗。